

農業委員会 だより



「軽トラ市」に2000人

平成29年5月21日、道の駅「東由利」で黄桜の里「軽トラ市」が行われ、2000人を超える人が訪れ、山菜や花の苗、野菜、工芸品などを買い求めました。

地元のみならず、秋田市、横手市、羽後町からも出店があり、多彩な商品がラインアップ。東由利のフランスス鴨バーガーや石窯焼きピザ、タチヨウ肉フランスフルトなど、来場者は、買い物だけでなく、「食」も堪能していました。

また、東由利のイメージキャラクター「モウ太くん」との記念撮影や早苗投げ大会が行われ、早苗投げ大会を楽しみに来たという小学生の男の子が真剣な表情で3mほど離れたバケツに向かって苗を投げていました。

スタッフは、ご当地キャラクター「黄桜すい」ジャンパーを全員着用。「黄桜すい」は、東由利を多くの人に知ってもらいたいと、ツイッターに「誰かこの地域のために、ご当地キャラクターを描いてくれる人はいませんか」とツイートしたことから生まれたそうです。自分たちで地元を盛り上げようという熱意が感じられる、とてもホットな「軽トラ市」でした。

農業をはじめたいみなさんを 応援します！

現在、新規就農者に対する様々な支援制度がありますが、就農前の研修制度についてご紹介します。

①未来農業のフロンティア育成研修

- ・主な内容・・・県の各試験場等で、稲作・野菜・花き・果樹・畜産などの経営・生産技術研修
- ・支援対象者・・・45歳未満、農業で自立しようとする意欲があり、研修終了後の県内の就農が確実と見込まれる者
- ・研修期間・・・24ヶ月間
4月～翌々年度3月
- ・募集時期・・・前年度の9月頃
※定員があります。

②地域で学べ！農業技術研修

- ・主な内容・・・希望する作物別の栽培から販売までの現場実践
- ・支援対象者・・・概ね50歳以下で研修終了後の県内での就農が確実と見込まれる者
- ・研修期間・・・24ヶ月以内
- ・募集時期・・・前年度の10月頃
※定員や、受入先経営体を確保する必要があります。

研修期間中には研修奨励金や国の農業次世代人材投資資金（準備型）を受けることができます。（ただし、重複受給はできません。）

研修についてのご相談は、由利本荘市農業振興課（TEL 24-6234）で受け付けています。



農地利用状況調査（農地パトロール）を実施します。

農業委員会では遊休農地や農地の違反転用の実態を把握するために毎年「農地利用状況調査（農地パトロール）」を実施しています。

8月下旬から各地域で実施し、農地の管理状況を確認します。

農地の適正管理をお願いします。



「ダメ！違反転用」

農地を農地以外にすることを農地転用といい、農地法の許可が必要です。

自己所有の農地を宅地等にする場合でも、許可を受ける必要があります。

許可を受けないで転用した場合や、転用許可に係る計画どおりに転用していない場合等は、農地法に違反することとなり、工事の中止や原状回復等の命令がされる場合があります。また、罰則の適用もあります。

農地転用に関する手続きは、農業委員会または各総合支所産業課に相談してください。

知らないとい
損!

農業者年金(積立型) の税制優遇と保険料補助

ご存じですか?

保険料が
全額社会保険料控除
の対象なんです!

経営や家計の状況
により保険料を
上げたり下げたり
できるんです!

青色申告等の要件
を満たせば
月額で最大1万円
(年12万)の保険料補助※
の仕組みがあるんです!

知らない
みたい!



生計を一つにする配偶者や後継者の保険料を支払った場合は、
その合計額 (最高保険料6万7千円の場合は3人分で24万1千2百円)
が経営主の所得から控除できます。

※ **保険料補助** を受けるには…

国民年金第1号被保険者などの農業者年金への加入要件に加え、

- **39歳までに加入**
- **農業所得が900万円以下**
- **下記の農業者の担い手要件** を満たせば受けられます。
 - ① 認定農業者で青色申告をしている人
 - ② 認定新規就農者で青色申告している人
 - ③ ①または②の要件を満たす経営主と家族経営協定を締結して経営に参画している配偶者、後継者など

詳しい内容やご相談については…
由利本荘市農業委員会事務局 (24-6259) や独立行政法人農業者年金基金 (03-3502-3199) にお問い合わせください。

農業者年金基金ホームページ

農業者年金基金

検索 <http://www.nounen.go.jp>



本荘地域 (農)東光ファーム 代表理事 遠藤 満博 (62歳)

農政転換への挑戦

東光ファームは、旧本荘市の東方に位置し、赤田の大仏の足元に圃場が広がります。地区の中央を赤田川が流れ、緑豊かで静かな山村です。

以前は、当地区も例に漏れず、高齢化と、そのための労働力低下、農業機械の老朽化、兼業での労働力不足と難しい問題が山積みでした。

平成27年度に、集落営農組合から、構成員10名による農事組合法人東光ファームを設立しました。

集落営農以前にも、稲の春作業、すなわち、播種からビニールハウスでの苗作り、田植作業まで協同作業を行っていたので、法人移行後の作業はスムーズに進みました。

稲作1597aを主体として大豆313a、昨年度から小菊35aに挑戦しています。定植、収穫時などは手作業のため、構成員の奥様方の協力(労働力)が大変大きな戦力となっています。それでも不足の時は地域の協力もいただき、雇用を確保しています。

法人に移行した現在も、構成員



の年齢構成や経営規模等の課題は解消されたわけではありません。幸い、当地区の隣りに我々より早く立ち上げられた農業法人が二つあり、それぞれの法人の良い点を取り込み、大豆機械等共有できるものは共有し、お互い協力し合っています。

自然相手の農業ですので、何年経っても難しいと感じています。品質、収量、収入の安定確保に向けて、他地区との情報交換や、研修を行うとともに、補助事業の活用も見据えつつ、地域の活性化に貢献できるよう活動しています。



本荘地域 佐藤 祐志 (32歳)

頑張る営農者

父と祖父が始めた養鶏業を、今は父と二人で経営しています。本格的に手伝い初めてから十年ほどになりましたが、「まだまだ至らないな」と思うことも多く、日々、頑張っています。

鶏の数は全体で約2000羽、品種は純国産の採卵鶏「さくら」と「もみじ」です。飼料にファフイア酵母を加え、色合いの良い卵を販売しています。

ほとんどがケージ飼いですが、30羽ほどは雄と一緒に平飼いし、

一部有精卵として販売しています。後々にはケージ飼いの半数ほどを、ビニールハウスを使った平飼いに移していければと考えています。

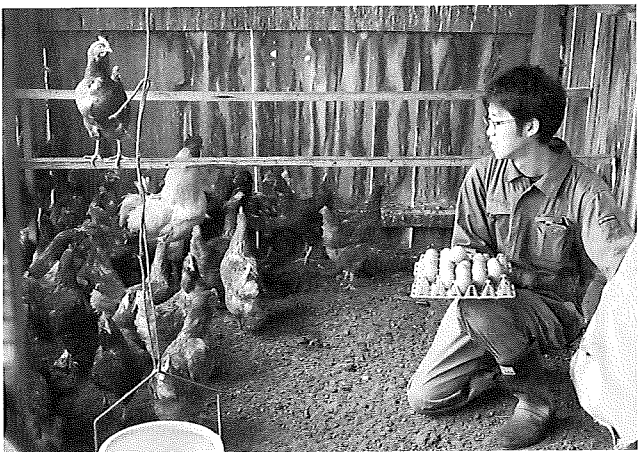
今は鶏舎をあちこち修繕する作業に追われる日々ですが、父と祖父は一から手作業でこの鶏舎を建ててきたと思うと本当に頭が下がります。

小規模ながら畑もあるのですが、祖父が亡くなってからは、なかなか手が回らない状態で、どのように活用しているかと模索中です。

家の前には卵の自動販売機もあり、購入いただいたお客さんとの「ちよつとした会話」も楽しみのひとつです。鶏をすぐ裏で飼っていることを説明すると多くの方が驚かれます。

周りに住宅が多いこのような場所では養鶏をやつてこれたのは、周りの人の理解と協力があってからだと思います。その期待にしっかりと応えていけるように頑張りたいと思っています。

(古閑 幸子委員)





農業区チヤレンジ

矢島地域 豊島 昂生(27歳)

県のフロンティア育成研修を経て平成28年に就農しました。1haの畑を借りてワイン用ブドウ6品種を垣根仕立てで育てています。

初めは原材料としてブドウを販売し、収量が増えてきたら一部の品種を委託加工、オリジナルワインとして販売する予定です。

実家は米農家で周りにワイン用ブドウを栽培している人はいません。それに秋田県では苗木や資材は手に入りません。探した結果、



運良く山梨県で苗木や資材を納品、栽培指導してくれる方と出会うことができ、約4000本の苗木を定植しました。電話や現地視察を繰り返し返して栽培アドバイスを頂いています。

このようなやり方は県内では前例がなく、様々な事業や、借り入れをするのも大変で、関係者の方を困らせました。また、アドバイスを頂いているとはいえ、慣れない作業ばかりで改善が必要です。

私は6次産業化に大きな可能性があると思っています。全国では地元の農産物を加工販売することはもちろん、レストランや農業体験にも結びつけて大きく売上を伸ばしています。それが雇用を生み、観光にもつながり、地元の人を集めます。私だけではそれらを実現させる可能性はありませんが、多くの方から力を借りることができれば不可能ではないと思っています。

もちろん大きな資本はないので今は1つずつステップを重ねていくしかありません。まずはしっかりと良品のブドウを作ることに専念

話題提供

ササキダチヨウファームを経営している、大内地域の佐々木清二さんをご紹介します。

佐々木さんは、ダチヨウの肉が低カロリーで鉄分が多く、健康食時代にマッチしている食肉と考え、ササキダチヨウファームを始めました。今年は何年より少なく20羽ですが、今後10羽以上増える予定だそうです。

ダチヨウは生後、おなかの中にある卵黄が消化されるまで餌を与えられないなど、大きくなるまで育てるのが難しく簡単ではないとのこと。

ダチヨウ肉は味に野性味のある赤身で、たたきが美味しく、お客様に好評です。そして、卵を使ったアイスクリームは絶品。

ひな鳥がぐんぐん成長している姿を見るのが楽しく、イベントなどで出店したときに、お客

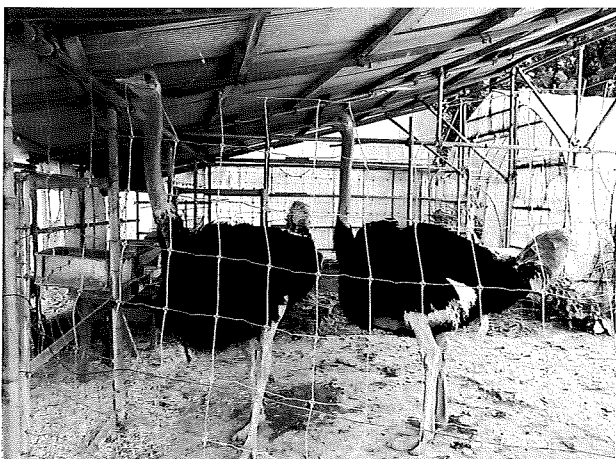
して、将来は大きな目標に向かって進んでいきたいです。

(佐々木 知榮委員)

様から「美味しい」と言っていたことが励みになっているそうです。

目標は観光農場を開園し、ダチヨウを見てもらい、肉を食べてもらふことと、今は県外主体の販売を県内にも広めたいと、にこやかに語ってくれました。

(農業委員会事務局 佐藤幸二)





生涯現役

本荘地域 高橋 保 (87歳) ご夫妻

ヒサ (83歳)

大きな声で「おはよう」が飛び交う。JA本荘支店のとなりにある青空市の朝の様子です。

その中で一番年上のヒサさんが、保さんとともに、たくさんの商品を出荷しています。売り上げも毎年一番です。

若々しく、ほかの会員のみんなもうらやましくて、どうやったらそんなに若々しくいられるのか聞き出そうとします。記憶力、行動力、思考力が抜群で、うらやましい限りです。本人が言うには、仕事も遊びも一生懸命にやるのがコツだとか！

青空市のレジ打ちや商品の袋詰めの際は、接客がとても上手なので、いつもヒサさんにおまかせします。そして、それがヒサさんの楽しみの一つでもあります。

高橋さん世帯では、田6ha、和牛十数頭を経営する比較的大きな農家です。その内減反して



いる田20aほどで切花や野菜を植えて、春には山菜、春から秋遅くまで切花や野菜、そして、一年中加工品と漬物を何種類も出荷します。本荘に忙しいと思いますが、二人とも元気なので今の状態が可能になっています。これからも二人で明るく元気な顔で出荷してくれることを楽しみにしています。

(佐藤 和子委員)

編集後記

私たちの身近なところで活躍されている事例を紹介して、第22号の発行となりました。

取材にご協力いただき、ありがとうございました。

8月からは、改正農業委員会法に基づき、新体制での農業委員会活動となります。

更に充実した紙面づくりに努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

(田口 作内委員)

農業委員会

- ◆ 本 庁 (事務局)
 - TEL24-6258
 - TEL24-6259
 - TEL24-6260
 - FAX24-6396
- ◆ 各 所 (産業課内)
 - TEL55-4957
 - TEL73-2014
 - TEL53-2114
 - TEL65-2804
 - TEL69-2116
 - TEL33-4614
 - TEL57-2205

- ◆ 広報委員
 - 佐藤 俊和・田口 作内・木村 勝三
 - 古閑 幸子・齋藤 誠・佐々木 亨
 - 遠藤 幸男・佐藤 秀孝・佐々木 知榮
 - 佐藤 和子

毎日は大変。1ヶ月だと遅い。そんなあなたに

まとめて読める！
週刊紙

- 様々な問題に、じっくり鋭く、迫ります。
- 充実した経営情報と流通の現場情報を伝えます。
- 農地を守り、担い手を応援する農業委員会活動を伝えます。
- 地域を元気にする情報を提供します。



購読申込は農業委員会事務局または各総合支所産業課内庶務班まで。